

令和4年度松本市保健所運営協議会 議事要旨

- 1 日時
令和5年1月12日（木） 午後4時から5時まで
- 2 会場
松本市役所東庁舎3階 議員協議会室（オンライン会議併用）
- 3 公開区分
公開
- 4 出席者
 - (1) 委員
野見山委員、花岡会長、田多井委員、永瀬委員、東條委員、都筑委員、丸山委員、近藤委員
 - (2) 代理出席者
ア 大久保委員代理：松本市歯科医師会 副会長 久根下 斉様
イ 宮島委員代理：松本広域消防局 警防課 課長補佐 久保田 忠様
ウ 宮田委員代理：中山小学校 教頭 田原 和幸様
 - (3) 理事者
塚田保健所長、徳永保健総務課長、田中健康づくり課長、加藤健康づくり課長、佐藤保健予防課長、大和食品・生活衛生課長、平林食品・生活衛生課長、下平食肉衛生検査所長
- 5 会議次第
 - (1) 開会
 - (2) 所長あいさつ
新型コロナウイルス対策中心の2年間だったが、医療機関等との密な連携でここまでやってこられた。一方、「健康をまもる」、「健康をつくる」といった幅広い健康政策を一体的に運用する松本市らしい保健所運営ができてないというのが実情。今後はポストコロナを見据え、中核市としての保健所の役割を打ち出していきたい。
本日は、時間の都合上、新型コロナウイルス中心の内容になるが、この議題に限らず、幅広い観点で皆様の意見をいただき、御指導願いたい。

(3) 会長あいさつ

主な行事として、3年ぶりに医療救護訓練を開催し、ICTを活用した情報伝達をテーマに行った。書面にて報告があるので参照してほしい。

また、新型コロナウイルス感染症対策に関して、12月12日に医師会主催で対応策の協議検討を行い、施設へ向けた提案・要望として、松本市保健所から通知を発出した。

内容は以下のとおり

- ・ 高齢者施設で入居者が新型コロナウイルス陽性と判明しても、原則施設内療養とする。
- ・ 酸素飽和度が90パーセント程度でも再測定し、喀痰吸引などの処置を行い、改善しない場合は主治医や施設、所属部医に相談し保健所に連絡する。
- ・ 陽性者に抗ウイルス薬を投与することで入院を避けられる可能性を高めることを期待し、担当医師に相談のうえ、積極的な使用の検討をお願いする。
- ・ 高齢者施設等から病院に入院した患者が、治療により症状が改善した場合は速やかに施設で受け入れを行う。
- ・ 治療をしても回復が見込めず、家族が納得している場合は、施設内で看取ることの選択肢も視野に入れる。

幸い、一部の精神科病院でのクラスターを除き、医療ひっ迫は回避されているように見えるが、新型コロナウイルス感染症の収束が見込めない中、またインフルエンザと同時流行の兆しがある中で、新規感染者数の再上昇、死亡者数の増加等様々な課題がある。

本日は、保健所運営への御指導を願いたい。

(4) 会議事項

(佐藤課長)

ア 新型コロナウイルス感染症対策の概況

(加藤課長)

イ 新型コロナウイルスワクチン接種の概況

ウ 令和4年度医療救護訓練総括

エ 動物愛護管理に関する基本方針(案)の検討状況

資料のとおり説明

資料配布のみ

(5) 意見交換

(野見山委員)

- ・ 松本市は後期高齢者の医療費が高い一方で、介護医療費は低い。医療が後手に回っており、介護予防が進んでいないのではないかと推察

されるため、分析してほしい。

- ・ 松本市は健診の受診率が40パーセントほどで、県内で比較しても低いいため、受診勧奨や継続受診がうまくいくよう努めてほしい。
- ・ 子宮がん、乳がんの検診受診率が20パーセント強で、全国平均の半分となっている。市のみでなく、関係団体も含めて受診率を最低でも全国レベルまで上げていく方法を検討しなければならないと考える。
- ・ 以上の知見を運営に役立ててほしい。

(田中課長)

- ・ 介護医療については、フレイル対策に力を入れて取り組んでいくよう医師会と協力して準備を進めている。
- ・ 健診の受診率は、民間の健診データを市で把握していないため、情報収集の仕方の見直しが必要。
- ・ オンライン、AIを用いた受診勧奨も徐々に効果が見え始めているものの、受診率の低さは実感しているため、新しい考えを取り入れながら取り組みたい。

(花岡会長)

- ・ 野見山委員の講演でもあったが、PDCAサイクルを回すには70パーセントほどの受診率がないとできない。
- ・ 民間の健診データについては、マイナンバーを用いた方法も検討してほしい。

(久根下様)

- ・ 新型コロナウイルスは、飛沫が主な感染源といわれるが、松本市内の歯科医院で飛沫による感染情報はなく、全国的にもほとんど例をみない。

様々な理由が考えられるが、マスクの着用や、換気の徹底といった基本的な対策が挙げられると感じる。

- ・ 従事者の家庭内の感染が増えてくると、休診とまではいかないが、市民の方にも迷惑をかけることがある。
- ・ 国保加入者の50パーセント以上の方は年1回は歯科を受診しており、診療と同時に検診を受けてもらっている。総合的にみると決して低くない結果であり、市民の健康への関心は高いと考える。

(田多井委員)

- ・ 新型コロナウイルスに関して、薬局で発生し休業した場合、利用者には、基本的には別の薬局で処方してもらっているが、難病の公費負担の関係や、薬局指定の処方箋を所持している場合は、待ついただくことになる。薬局での医療ひっ迫を感じた。

- ・ 管理薬剤師が感染した場合は、開局できず、グループで運営する薬局であれば他店舗に勤務する薬剤師が協力し合うこともできるが、個人経営ではそれも難しい。また、管理薬剤師は他の店舗では勤務できないことになっているが、非常時として融通を利かせることができればありがたい。
- ・ 特別対応ではあるが、このような事態に対応できるような対策があればよいと考える。

(花岡会長)

- ・ 保健所内だけで解決できる問題ではないかもしれないが、保健所内でも共有して今後に活かしてほしい。

(永瀬委員)

- ・ 飲食業界に携わり50年近くになるが、新型コロナウイルスの流行は飲食店の経済をゆるがす事態であり、With コロナが叫ばれているものの収束は見られない。
- ・ 業界としては、原点回帰して食中毒を撲滅することを目指す。
- ・ ノロウイルスは手洗い、アルコール消毒等の対策の徹底により、少なくなっている。
- ・ 業界としては以前の7, 8割くらいの回復具合。経済を回す対策を求める。

(東條委員)

- ・ 新型コロナウイルスについて、動物病院で職員が感染する事例もあり、個人で経営している病院が多く、一時閉院を余儀なくされる場合が多い。
- ・ 動物愛護管理に関する基本方針(案)の検討状況について、委員を務めているが、5月の最終の懇談会にて所長の言う松本らしさを踏まえたものを示せればと考えている。

(都筑委員)

- ・ 塩尻協立病院は、相澤病院、まつもと医療センターや松本市立病院の後方支援として、コロナ後の受け入れ病院として活動してきた。
- ・ 昨年12月からコロナ後の患者病床も2床設けているが、常時埋まっている状態。
- ・ 療養を終えて施設に戻れる方も、施設で感染が発生すると病院で待機となり、その間に病状悪化というケースが多い。肺炎となり亡くなるケースもある。
- ・ コロナ後の患者を受け入れたいという意思はあるが、病床が空かずに受け入れられないことが多い。

- ・ 寒さもあってか肺炎、心不全にり患する患者も多く、病状が安定せず、病床が空かない。

(丸山委員)

- ・ 介護の立場からすると、最も厳しい状況が続いている。
- ・ 報道のとおり、利用者の集団感染後の死亡者の急増や、介護施設の休業、廃止も多い。また、新型コロナウイルスに直接起因しないものの、在宅介護の法人が倒産するケースもある。
- ・ 感染防止に努めているが、家庭内で感染し、施設に広まるケースが多い。
- ・ 社会全体として、重症化リスクが高い人を守る行動がなおざりになっていることを懸念している。
- ・ 要望として、市保健所独自で、重症化リスクが高い人を守る行動をとることの市民への呼びかけを求める。

(花岡会長)

- ・ 城山介護老人保健施設にてクラスターが発生した際は、保健所の適切な指導により事態を収束できた。重症化リスクがある人を守ることも大切だが、施設内での感染対策は緊張した対応が必要と考える。

(久保田様)

- ・ 令和4年の救急出動件数が、松本広域消防局発足以来、過去最多となった。
- ・ 特に軽症者からの要請が増えている。
- ・ 令和2年、救急出動件数が少なかった原因は、一概にコロナの影響とは言えないが、市民の外出が減少し、受診控えの機運が高まったことが原因と考えられる。
- ・ 令和4年は、経済を回す対策が打ち出され、出歩く市民が多いからか、安易な救急要請が増えたと推測する。
- ・ 療養基準等の見直しからか、自宅療養者の要請が増え、令和4年は新型コロナウイルスに関連した搬送が1,000件を超えた。
- ・ ワクチン接種後の体調不良の救急要請も増えている。
- ・ 他方、全国的に話題となっている搬送困難事例は、0とはいえないが、限りなく少ない状況である。

(近藤委員)

- ・ 新型コロナウイルスのクラスター等の情報を共有してもらえれば、タイベックススーツの着用等の対応ができ、事件・事故現場での感染を防げる。
- ・ 逮捕した者が感染しているのか、捜査関係事項照会書で照会ができ

るのか教えてほしい。

- ・ ワクチン集団接種に反対するグループの活動も発生しており、情報共有を図って警備対応等したい。

(田原様)

- ・ 第6波、第7波では陽性者が出るたびに学級閉鎖等となり、職員が感染、濃厚接触判定で出勤困難となることが多かった。
- ・ 学級閉鎖は、基準が緩和されたことから少なくなったが、インフルエンザの流行とも合わせて対策を考えていかなければならない。
- ・ 医療救護訓練に参加したが、マニュアルの大切さを実感した。

(6) その他

(田中課長)

- ・ 健康増進総合計画について、市議会厚生委員協議会后、パブリックコメントを実施する予定である。後日、委員の皆様には資料をお送りするので、ご意見いただければありがたい。

(花岡会長)

- ・ 新型コロナウイルスワクチンについて、5歳から11歳の小児は3回目の接種をしているが、オミクロン株対応でないのはなぜか。

(加藤課長)

- ・ 小児への接種の安全性について確認できていないため。

(7) 総括

(花岡会長)

- ・ 松本市保健所には、三師会や関係団体の協力を受けながら、松本圏域医療体制の向上を目指していただきたい。
- ・ 感染症に関しては年明けから再拡大が見られ、新規感染者数は1月に入り全国的に増加傾向が続いており、松本市保健所としては、引き続き皆様に御指導をお願いしたい。
- ・ 医療救護訓練では実行委員会において改善点が指摘されている。実行委員会は解散したが、改善点を洗い出し、対策してほしい。

(8) 閉会